

「東京2020パラリンピックゴールボール女子日本代表」

浦田 理恵 選手

Urata Rie

いざ、東京2020へ
祝・東京パラリンピック出場



写真提供：シーズアスリート

東京パラリンピックへ抱負

この東京大会で2008年の北京大会に続き、4大会連続の出場となりました。たくさんの方から応援を頂けたことでまた夢の舞台に立つことができます。

私はチームで一番悔しい思いをしている選手であり、勝つ秘訣を一番知っている選手でもあります。日本は、若い選手がどんどん成長し強くなっています。しかし同時に世界も強力になっています。ですが、私たち日本チームの強みであるチームワークを生かし、一人ひとりが繋がって、みんなでボールを守り、得点を取って、勝利を掴み取りに行きたいと思っています。次に私が南関町に帰ってくる時には、大きな輝くお土産、金メダルを持って帰ります。



写真提供：シーズアスリート

子どもたちへメッセージ

皆さんには、ぜひ失敗を恐れずにいろんなことにチャレンジしてほしいと思います。

何かに挑戦するとき、失敗した時のことを考え、なかなか一歩踏み出せないということがあると思っています。私も、そうでした。しかし、ミスしてもいいからととりあえず、まず一歩を踏み出す。その繰り返しの中で、たくさん失敗という経験を積み、気づきを得てきたからこそ、この方法よりさらに良い方法を学ぶことができました。逆に1回や2回、10回失敗したとしても、それを100回やったらできるようなになる、そんなこともたくさん経験してきました。失敗があるから、自分のやりたいことを成し遂げることができません。ぜひ皆さんにも、失敗を恐れずにいろんなことにチャレンジしてほしいと思います。



▲広報なんかん(平成24年11月号掲載)

浦田理恵選手《略歴》

- 1977年 熊本県玉名郡南関町豊永で出生
- 2008年 北京パラリンピック出場
- 2012年 ロンドンパラリンピックに出場し、金メダルを獲得
- 南関町町民栄誉賞受賞
- 2016年 リオ・デジャネイロパラリンピックに出場し、5位入賞
- 2021年 東京パラリンピック出場

- ゴールボール日本代表チーム選手
- 総合メディカル株式会社社員
- シーズアスリート所属

浦田理恵選手 (シーズアスリート所属)
1997年7月に南関町の豊永で生まれ、南関第三小学校、南関中学校を経て、鹿本高等学校を卒業。20歳を過ぎてから急激に視力が低下し、網膜色素変性症を発症しました。現在は左目の視力がなく、右目も視野の95%が欠損。強いコントラストのものしか判別できません。

ゴールボールを始めたのは、テレビでアテネパラリンピックの同競技の試合を観たことがきっかけで、その後当時通っていた専門学校のゴールボールの練習に参加するようになりました。

過去のパラリンピックでは、北京大会で7位、ロンドン大会では金メダルを獲得し、南関町の町民栄誉賞を受賞しました。リオデジャネイロ大会では、チームの主将を務め、5位に入賞しています。

4回目となる東京2020大会では、選手団副主将として日本を引っ張ります。

ゴールボールとは？

1チーム3人の選手同士が横一列に並び、転がすと鈴の音が鳴るボールを相手のゴールに投げ合って得点を競うスポーツです。選手はアイシェードを着用し、鈴の音や足音を利用して守備や攻撃を行うため、別名「静寂の中の格闘技」とも言われています。



写真提供：シーズアスリート

大会スケジュール 【女子ゴールボール部分のみ抜粋】

予選ラウンド	
8月25日(水)	日本 vs トルコ
8月27日(金)	日本 vs ブラジル
8月28日(土)	日本 vs アメリカ合衆国
8月29日(日)	日本 vs エジプト
準々決勝	
9月1日(水)	
準決勝	
9月2日(木)	
決勝	
9月3日(金)	
3位決定戦	
9月3日(金)	